佳作

つなぐいのち

秋田県鹿角市立十和田中学校
３年　田村　寧音

とうとう私も受験生、将来について考えることが多くなってきた。将来私は医療関係の仕事に就きたいと考えている。医療関係の仕事の中でも特に興味を持ったのは、臓器移植コーディネーターという仕事だ。

中学１年生の頃に臓器移植という医療があると知り、そこから興味を持ち始めた。臓器移植コーディネーターという大きな夢を持っているものの「本当に私は人を助けることができるのだろうか。」そんな疑問ばかりが浮かんでしまう。私は暗記をするのは得意だが、理科の単語だけはスムーズに覚えることができない。それに加えて、大量の血を見ることも苦手だ。

こんな私が臓器移植コーディネーターになれるのだろうか。今のままではなれる確率は０に近いだろう。それでも私は臓器移植についてある程度のことは理解しておきたいと思い、「目標を達成できるか」を考えるのではなく「目標を達成するためにできること」を考えるようにした。調べていくうちに、ぜひ挑戦したいと思う仕事を見つけた。それが、認定レシピエント移植コーディネーターという仕事だ。コーディネーターはドナー側とレシピエント側で事情が異なるため、仕事もそれぞれ違うそうだ。レシピエント移植コーディネーターは、主にご家族への説明を行ったり患者さんのケアをしたりする。この仕事内容を知った時、より一層挑戦したいという意欲が強くなった。

私が今の自分では厳しい目標だと分かっているのに挑戦したいと強く思うようになったのは、自分がひどく落ち込んでいる時、一つの記事を読んだことがきっかけだった。

中学生になり環境がガラリと変わったことで精神のバランスが崩れてしまった。勉強や部活動、友人との付き合い方、全てにおいて思うようにいかなくなり、ふさぎ込むようになった。時間が解決してくれると思っていたが、そんなことはなく、日が経つにつれどんどん気持ちが落ちていった。人に対して興味を持たなくなったり死について簡単に考えるようになったりしていた。

そんな時に「脳死状態に陥った女性が臓器提供により、100 人余りの患者の命を救った」という記事を見た。一人の死は悲しいけれど提供したことによって 100 人もの命をつなぐことができて素晴らしいと思ったと同時に、命を簡単に手放そうとしている自分のことを心の底から愚かだと思った。

臓器提供を待ち望んでいる人に対して今私ができることは何だろうか。ドナ

ーになることが一番に思い浮かんだが、当時の私は知識不足でどのような方法があるのかも分からなかった。だからこそ、正しい知識を身につけ移植を望んでいる人の力になりたいと思った。

私はレシピエント移植コーディネーターになることで、今の日本の医療状況を変え、未来の医療をより良くするために力になりたいという気持ちを抱いている。今の日本では、少子高齢化や医局制度の崩壊などいくつもの要因が重なり、医師不足に陥っている。医師と同様に臓器移植コーディネーターも不足している。脳死下での臓器提供数はようやく増加傾向となっているが、それとは反対にコーディネーターは不足しているのが現状だ。このままではつなげるはずだった命のバトンが渡らない事例も出てくるだろう。このようなことを少しでも減らすために、まずは自分が精いっぱい努力して目標を達成し、コーディネーターの一人としてお手伝いをしたいと思った。コーディネーター不足は今後も続く可能性があるため、この問題を解決するためにコーディネーターの数を少しでも増やし、多くの方に臓器移植について理解してもらい興味を持ってほしいと思っている。

臓器移植に関心を持てないままで、恐怖心や嫌悪感を示す人もいるかもしれない。しかし、ドナーを待っている人が世界中にたくさんいる事実を知ってほしい。そして、想像してみてほしい。あなたの心臓が誰かの胸で脈打ち、命のバトンがつながった未来を。

最後に 10 年後の私へ

10 年後の自分は今の自分より幅広い分野で新たな経験を積みいろいろなことに挑戦していてほしいと思います。今私はコーディネーターになるために一生懸命努力しています。たとえ、なれていなかったとしても誰かを手助けできる大人になっていてほしいです。今の私は、何でもすぐ諦めてしまい苦手なことが目の前にあると避けてしまう癖があります。それでも夢をかなえるために苦手な勉強も頑張っています。日常生活の中で努力することや挑戦することを学び、自分自身の可能性を広げていきたいです。未来の自分が充実した日々を過ごせるように今を生きている私がいろいろなことに挑戦し、精いっぱい頑張っていきます！